

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長  
(公印省略)

### 病害虫発生予察特殊報について

平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号を公表したので送付します。

### 平成25年度病害虫発生予察特殊報第1号

- 1 病 害 名 : トルコギキョウ葉巻病
- 2 病原ウイルス : トマト黄化葉巻ウイルス(TYLCV : *Tomato yellow leaf curl virus*)
- 3 発生地域 : 沖縄本島

#### 4 発生確認の経緯

- (1) 平成25年12月、沖縄本島内のビニールハウス内においてトルコギキョウの節間の萎縮、生長点付近の葉巻、葉脈の隆起などの症状を呈する株が認められ、当所で診断キットを用いて検査を行った結果、陽性反応を示した。このことから、(独)農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センターに診断を依頼したところ、PCR法により罹病植物からTYLCV(イスラエル系統)が確認され、トルコギキョウ葉巻病であることが判明した。本県において本病害が確認されたのは初めてである。
- (2) 以上の結果を受け、平成26年1月に県農林水産部関係機関と合同で沖縄本島内のトルコギキョウ栽培圃場において発生調査を行い、初発生圃場を含めた26圃場の内、2圃場で発生が確認された。
- (3) 本病は平成11年に国内で初めて長崎県において発生が確認され、平成26年1月現在、17県から特殊報が発表されている。  
なお、本県では同じ病原ウイルスによるトマト黄化葉巻病の初発生を平成18年に確認しており(平成18年度病害虫発生予察特殊報第2号)、その後もトマト、ミニトマトで発生が継続している。

#### 5 病徴および病原ウイルスの性質

発病株は節間が短縮して葉が小型化し、葉脈が隆起、葉表を内側にして巻く(写真)。病原ウイルスのTYLCVはタバココナジラミによって永続的に伝播される。タバココナジラミは、成虫および幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスの伝搬能力を獲得する。なお、経卵伝染、および汁液伝染、種子伝染および土壌伝染はしない。

#### 6 防除対策

- (1) 発病株は感染源となるため、早急に抜き取る。抜き取った株は必ずビニール袋に入れるなどして密封し、圃場外へ持ち出し処分する。
- (2) 施設内外の雑草は、本病の感染源および媒介虫であるタバココナジラミの発生源となるので、抜き取り密封処分する。
- (3) 施設開口部には0.4mm以下の目合いの細かい防虫ネットを展張し、タバココナジラミの侵入を防止する。
- (4) 黄色粘着テープ等により、タバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- (5) タバココナジラミの薬剤防除を行う場合は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- (6) 発病が確認された施設栽培では、収穫終了後10日間以上施設を密閉するなど、施設内でタバココナジラミを死滅させ、拡散防止を図る。

## 7 寄主範囲

国内でTYLSCVの感染が確認されている植物

ナス科： トマト、ミニトマト、チョウセンアサガオ、ペチュニア、イヌホオズキ、ピーマン(無病徴)、ジャガイモ(無病徴)等

キク科： ヒャクニチソウ、ノゲシ、タカサブロウ、ノボロギク

マメ科： インゲン、ヒラマメ

アオイ科： ウサギアオイ

トウダイグサ科： エノキグサ等

スイカズラ科： スイカズラ



写真1 トルコギキョウ葉巻病発生圃場の様子

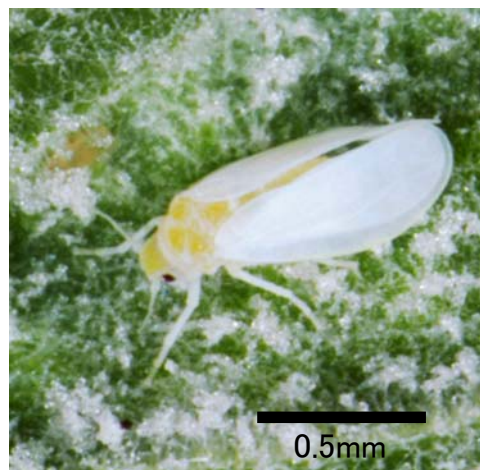


写真2 タバココナジラミの成虫



写真3 黄化および葉巻症状



写真4 葉脈の隆起

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: 098-886-3880

ホームページアドレス: <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>